

連帯はばたき

連帯ユニオン
関西ゼネラル支部
宣伝部

第25号
2020.9.

明るく・楽しく・元気に活動し、産業別労働運動を確立しよう！

8.23 第2回支部委員会

20春闘を総括、秋・冬季の職場活動を確認

春闘って、これだけの賃上げができるんやと新規組合員

この夏に組合加入、分会結成をした組合員が、支部委員会の資料「20春闘結果一覧」をみてもらった言葉です。職場環境の改善、労働条件の改善を求めて組合加入した組合員が、闘いの成果を目の当たりにして、組合活動の期待感、闘争意欲を高揚させ、自分も先輩組合員に続こうとの決意が伝わる一言でした。

組合活動の基本は職場・分会活動

20春闘は、16分会が春闘要求をし、5分会が会社実態等から要求を断念しました。10分会（職場）が要求も交渉もしていません。この他に、解雇等退職後に争いをしている分会や労災等休業中の分会がありました。この間活動がなかった分会・組合員も、この秋からの秋・冬季闘争を契機に、職場活動に取り組みましょう。働きやすい職場、働きがいのある職場は、組合員一人では実現しません。職場のなかまの理解・協力は不可欠です。職場のなかまと話をして、グチや不満を拾い集めましょう。そのグチや不満はどこに由来するのか、原因がわかれば解決する手立てが見えてくると思います。組合活動の基本は職場です。



全ての職場で21春闘を闘おう

川口分会は、匿名組合員と退職組合員です。関西ゼネラル支部になって1年半になりますが、組合員の半数近くが匿名組合員です。匿名組合員は、それぞれの事情をかかえ労働組合を公然化していませんが、職場活動はできます。職場のなかまと話をして、彼ら彼女らのグチや不満を拾い集めましょう。2月下旬には複数名分会として公然化し、21春闘に参加しよう。
(副執行委員長A)

A分会のワンマン社長 休憩時間が取れないのが当たり前 新人は1時間前に来て、事務所の机を拭くのが当たり前



T市でA豊中、A3号館(グループホーム)、A5番館(サービス付き高齢者向け住宅)を運営する有限会社Aサービス、社長はK.Y。K家は地元の地主のようで、H南町の自宅周辺にはKをはじめ同じ名字の大きな家が立ち並んでいる。

職員勧誘が成功すれば報奨金が…

私は、尼崎市内の大手デイサービスの正社員でした。“人手不足で多忙、それでいて賃金が低い”のが介護職場ですが、大手だしそこそこの職場環境でした。そこに、昨年11月頃、「月27万、サ責のポストを用意するからきてよ」と、以前T市のグループホームと一緒に勤務し、退職後もお

互いの家を行き来する仲のいいNさんからAに誘われました。3日に一回は電話があり、60回を超えました。「宿直はできませんが、残業等なら協力できます。それで良ければ」というということで、6月1日からA5番館で正社員の介護職員として働くことになりました。

Aで働き始めると、Nさんから、「管理者でもなく、宿直もしないので、25万にする」と言われ、何日か後には、「3番館(グループホーム)の館長をするなら27万に戻す」と言われました。私は「そんな器ではないし、夜勤ができないから無理」と断りました。

昼休みになり、食事を始めようとしたときに、Nさんが突然休憩室に入ってきました。「排泄介助に行ってきて！」といい、それが1度ならまだしも何回も続き、私はその都度食事を中断しトイレへ行きました。あまりにも頻繁にいうので、「1時間しっかり休ませて欲しい。労働基準法でも守られているはずですよ」というと、Nさんは「30分しか休んでなくても、(60分休憩を)取ったということにしとかなきゃない」といいました。

6月16日K社長が、「試用期間の8月20日で辞めていただきます」といい、6月29日に「解雇通告」と「労働条件通知書」を渡されました。解雇理由を尋ねると、「今は言えない、7月に入ってから」といい、7月7日に、「奉仕の心が無い(休憩のこと?)」「Nさんを『姉さん』と呼び職場秩序を乱した」といわれました。K社長やNさん自身は、“〇〇ちゃん”“ボクちゃん”と普段から呼んでおり、私は「姉さん」といったから解雇だというのです。Nさんは会社側につき、社長は職員に私とのラインをブロックするように指示しました。

K社長は、過去から些細な事を理由にして解雇したり、「みんなが迷惑してる」などといって職員を精神的に追いつめて退職させてきたことが分かりました。7月11日組合を公然化して解雇撤回を要求、8月21日からH駅周辺で40分間の街宣活動と出勤闘争を続けています。

9.6 老朽原発うごかすな！大集会 in おおさか

福島原発事故から10年目。ひとたび原発が事故を起こせば多くの命を奪われ、故郷を奪われ、海や川、田畑を奪われ、生活基盤を根こそぎ奪われることを私たちは知りました。

ところが、2016年政府は40年超えの原発の運転を認可、60年運転を先導し、関西電力は、運転開始40年をはるかに超えた高浜1・2号機、美浜3号機の再稼働を画策しています。

当初5月17日の大集会が、コロナ禍で延期され、9月6日開催となりました。その間集会実行委員会は、かつてなかったほど幅広く市民団体、労働団体、政党、団体、個人に賛同を呼びかけ、関西ゼネラル支部も含め1036もの団体・個人の賛同を集めての大集会となりました。

若狭の原発を考える会の木原さんは集会基調で、①原発が老朽化すれば、危険度が急増する。高温、高圧の下で高放射線に長年さらされた原子炉の圧力容器や配管は、腐食、減肉、脆化が進み、なかでも蒸気発生器伝導管の損傷が深刻で、重大事故につながりかねない。②老朽原発は、建設時は地震の大きさを過小評価し適当とされたものが現在の基準では不相当となる部分が多数ある。③老朽原発の安全対策費は膨大で、すでに11基が廃炉になり、海外の原発建設は全てが頓挫している。④関電の原発マネー問題や相次ぐ不祥事によって原発全廃の声が拡大しているし、使用済み燃料は中間貯蔵すら引き受けるところがない。⑤今、脱原発・反原発の運動にとって、大きな追い風が吹き、山は動き始めている。コロナがないかのように再稼働の準備工事を進める関電に対し、委縮することなく地域で職場で勇気を持って行動しよう。老朽原発廃炉を突破口に原発全廃を勝ち取ろうと呼びかけました。



地域で脱原発・反原発に取り組む、関電の原発マネー還流を告発する会、老朽原発40年廃炉名古屋訴訟市民の会、福井原発訴原告弁護団と地元の福井県高浜町、美浜町、東海第二原発周辺の住民がアピール、その後、脱原発をたたかう全国各地の仲間が登壇し自己紹介、続けて滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良の市民団体、労働組合から平和フォーラム、全労連近畿ブロック、おおさかユニオンネットワークが



登壇しました。

集会の最後に、新型コロナウイルス終息が見えない中でも、「老朽原発うごかすな！」の声を委縮させることなく、原発立地・周辺地域と大電力消費圏を結ぶすそ野の広い大きな運動を創り上げ、老朽原発再稼働を阻止し、それを突破口にして原発全廃を勝ち取ろう。人の命と尊厳が大切にされる社会を展望しよう、との集会決議が提案され、大きな拍手で採択されました。

集会後、御堂筋の側道を難波までパレード。車道から歩道の市民に手を振りながら、老朽原発うごかすな！命を守ろう！と呼びかけました。